

アレア品川20周年記念インタビュー

Behind the A, R E, A
～ずっと、アレアを支える人～

皆様のおかげでアレア品川は20周年を迎えることができました。
 私たちが20年間、地域のため、環境のために取り組んできたことがあります。
 今回はアレアを陰で支える皆さんに、その真実を語っていただきました。

20年前から見据えていた

アレアがどんな場所かという、ずばり“リサイクルに力を入れているビル”と言えるでしょう。それも最近の話ではなく、この20年間地道にコツコツと取り組んできたのです。今でこそSDGsが制定され環境問題への意識が世界に浸透しつつありますが、このビルは20年前の竣工時から、リサイクル率を上げるための様々な機械を導入し

ていました。その機械がある地下3階の「ゴミ処理センター」で、毎日手作業でゴミを分別・計量・整理している人がいます。その方々のお陰で、アレアはリサイクル率をほぼ100%に押し上げることができました。ゴミを回収しているビルは他にもありますが、ここまでのシステムを取り入れているビルは滅多にありません。



20年前より地域のため、環境のためにビルとしてエコに取り組んでいる、陰でアレア品川を支えている皆さん。

アレア品川が取り組む
ゴミ処理システム

2

発泡スチロール
熔融機

発泡スチロールを熱で溶かしコンパクトに。搬出回数を減らすことができ、再び発泡スチロールに生まれ変わる。

4



生ゴミの冷蔵保管庫

1

スクレードラム
貯留機

1tまで可燃ゴミを貯留できる機械。ゴミの搬出回数を減らし、排気ガスとCO2を削減することができる。

3

アルミ・スチール缶
分別機

自動で缶を潰し、磁石で分別できる機械。

店舗ごとの生ゴミ専用BOXを配置。冷蔵することで腐敗と害虫の増殖を防止する。

埋立地のリミットが、
目前に迫っている

なぜリサイクルに力を入れなければいけないのか？それは、東京湾の埋立地があと40～50年でいっぱいになり、ゴミを捨てることができなくなってしまうからです。現在、江東区と大田区が進めている「新海面処分場」も、領域の限界まで広げており、これ以上新たな埋立地を作ることとは不可能です。埋立地に運ばれるのは、清掃工場で焼却された灰、つまり可燃ゴミです。よって、可燃ゴミの中からまだリサイクルに回せる素材を取り出さなければいけません。日本是世界から見ても、特に紙のリサイクルが遅れている国です。紙ゴミをミックスペーパーや古紙に分別しリサイクル率を高めれば、それだけ埋立地のリミットを遅らせることができるのです。

一人一人の意識が
やがて社会を変える

アレアは竣工当初から環境問題へのアプローチを積み重ねてきました。しかし最も重要なものは、一人一人の意識です。どれだけ良い機械を導入したとしても、個人が気を付けなければ分別はできません。私たちが取り組んでいること、目指しているものを地域の皆様に知っていただき、それが環境への意識の向上に繋がっていけば、これほど嬉しいことはありません。

ビルは生き物です。生き物だから当然あちこち傷んだり歪んだりします。ビルを輝かせてくれるのは入居者の方々ですが、そうした部分を守っているのはアレアスタッフのような“陰で支える存在”です。皆がそれぞれの役割を果たし、調和が取れてこそ、ビルという生き物は生きいきと呼吸ができるものです。皆で意見を交わし、支え合いながら、ますます地域に愛されるアレアを目指してまいります。

いまいちど
再確認！私たちにできること！
リサイクル率を上げるコツ

- 基本の分別を守る。
(各ビルや自治体の規定)
- ペットボトルの
キャップとラベルを外す。
- 紙は可燃ではなくリサイクルに。
(古紙またはミックスペーパー)
- 生ゴミは生ゴミでまとめる。
- 紙ゴミやプラスチックは、洗ってリサイクル。
・汚れが落ちない紙ゴミは可燃へ
・汚れが落ちないプラスチックは不燃へ
- 再生紙などのリサイクル用品を
生活に取り入れる。

